

びわ湖を 学ぼう



写真提供 (ネジレモ) 戸谷 美奈子

びわ湖を学ぼう
琵琶湖ハンドブック 四訂版 概要版

令和7年(2025年)3月発行
発行/滋賀県琵琶湖環境部環境政策課
〒520-8577 大津市京町4丁目1番1号
TEL : 077-528-3453
FAX : 077-528-4844
E-mail : biwako-es@pref.shiga.lg.jp

印刷 有限会社プロテール
表紙・裏表紙イラスト 黒川 琉伊



びわ湖と関わる様々な活動
「びわ活」を紹介しています！
◀ 滋賀県の琵琶湖関連情報サイト
びわ活ガイド

なまえ

ビワコハホンニスゴイってなに？
びわ湖にしかない生き物がいるの？
この本で、びわ湖について詳しくなろう！

びわこ
琵琶湖ハンドブック 四訂版 がいようばん
概要版

琵琶湖ハンドブック(本編)は県立・県内市町立図書館、県HPにて閲覧可能▶



はじめに

日本で一番大きい湖といえば、びわ湖。
 他にもびわ湖について知っていることはありますか？
 びわ湖の水はどこから来ているの？
 びわ湖にだけ生きている生き物がいるって本当？
 さあ、びわ湖について学んでみよう！

びわ湖って どんな湖？

■ びわ湖のデータ

- びわ湖の面積 **669.26km²**
 (北湖:南湖=11:1)
 … 滋賀県の面積の約6分の1
- びわ湖の周り **235.20km**
 … 一周するのに、自転車で
 約1泊2日かかる
- 最も深いところ
 北湖 **約104m**
 南湖 **約8m**
- 貯水量 **275億m³**
 … すべての水が入れ替わるのに
 約19年かかる



びわ湖に流れ込む川は
 約460本もあるけど、
 出ていくのは瀬田川と、
 琵琶湖疏水だけ！

■ 「古代湖」って知ってる？

約10万年以上のとても長い歴史をもつ湖のことを「古代湖」といいます。世界には古代湖が20くらいしかありませんが、びわ湖もそのひとつなのです。びわ湖は、もともなった湖まで含めると、なんと約400万年もの歴史があります。普通の湖は1万年くらいで無くなってしまうことが多いので、びわ湖はとても長生きな湖ですね。

また、古代湖では「固有種」というその場所にしかない珍しい生き物が暮らしています。びわ湖も固有種がたくさん暮らしている奇跡の湖なのです。



マザーレイクゴールズ (MLGs)について

マザーレイクゴールズ(MLGs)とは、
 これからもずっとずっと、水がきれいで、
 生き物がたくさんいるびわ湖にするために、
 みんなで話し合って作った目標です。
 水質のゴールや生き物のゴールのほか、
 森のゴール、温室効果ガスのゴールなど
 いろいろなゴールがあります。





びわ湖の水を大切に



私たちは毎日、様々な場面で水を使っている。蛇口をひねればいつでもきれいな水が出てきます。しかし、水は決して無限にあるわけではありません。限りある貴重な資源のひとつであることを忘れないようにしましょう。

■1450万人を支える水 (9-1 水利用)

もっと詳しく知りたい方は、「琵琶湖ハンドブック」をチェック！

びわ湖は周囲を山に囲まれており、降った雨のほとんどがびわ湖に流れ込みます。滋賀県に住む人たちは、川やびわ湖の水を生活や工場、農業用水として使っています。

そして、びわ湖にたくわえられた水は瀬田川や宇治川、淀川として下流の京都や大阪を流れ、約1450万人の生活を支えています。

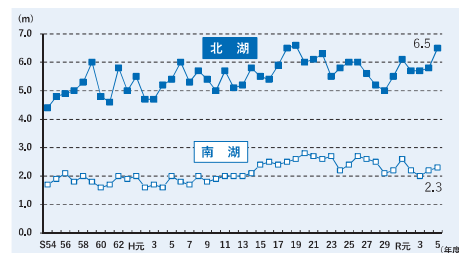


びわ湖の水利用区域図

■びわ湖の水質 (8-4 水質)

右の図は、水がどのくらい透き通っているかを示す透明度のグラフです。透明度は長期的には良くなっており、水質は改善しているといえます。

しかし、透明であるばかりが湖にとって良い環境とは限りません。「透明だから良い」「にごっているから悪い」と考えるのではなく、いろいろな視点から環境を考え、みんなが共存できる道を探すことが大切です。



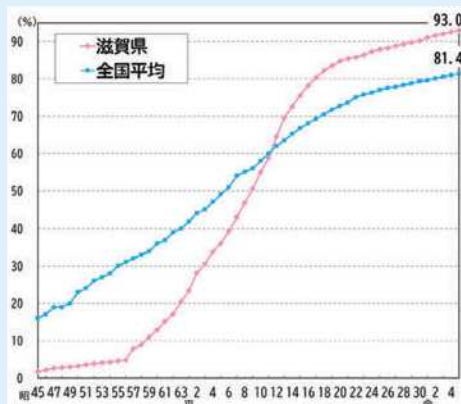
びわ湖の水質 (透明度)

▶下水道のはたらき (9-3 下水道)

よごれた水を処理する下水道は、びわ湖の水のよごれを防ぐために大切な役目を果たしています。

滋賀県では、下水道が広くいきわたるように、計画的に整備を進めてきました。その結果、下水道普及率は93% (2023年) で、汚水処理人口普及率は99.2%で全国2位となっています。

しかし、下水道には何でも流していいわけではありません。みんなの家庭からでる時点で、水をよごさないようにするために何ができるか考えてみましょう。



下水道の普及率



びわ湖の魚と漁業



びわ湖にはたくさんの魚がいて、昔から人々は漁業を営み、その恵みを受けてきました。しかし近年、びわ湖の漁獲量は大きく減少しています。生息場所を守って、魚介類を増やし、湖魚をたくさん買って、食べて、びわ湖の漁業を応援しましょう。

■固有種 (7-3 固有種)

限られた地域にしかすんでいない生き物を「固有種」といいます。びわ湖は、日本で特に固有種が多くすむ湖で、その数はなんと66種。そのうち魚の固有種は17種います。



ビワコオオナマズ

■外来種 (7-12 外来魚)

滋賀県では、オオクチバス (ブラックバス) やブルーギルなどの外来魚を駆除する取組を進めています。

これは、外来魚などを食べることによる被害が深刻で、生態系のバランスを崩しているからです。



オオクチバス

胃袋の中の小魚、エビ

■湖魚料理 (2-2 食材、2章トピック 琵琶湖八珍)

びわ湖で獲れる魚介類は、煮つけ、酢のもの、焼きもの、みそ汁、刺身、なれずしなど、いろいろな方法で食べられています。ビワマス、アユ、ニゴロブナ、ホンモロコ、セタジミなどが有名です。



ビワマスの刺身



ニゴロブナのふなずし



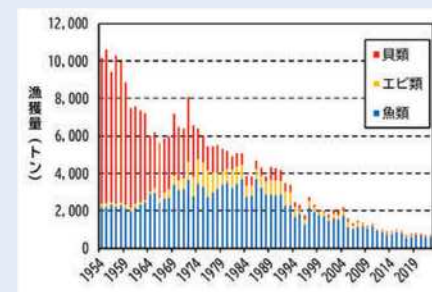
ホンモロコの素焼き



セタジミの味噌汁

▶漁獲量を増やすために (4-8 漁業)

びわ湖の漁獲量は、魚の種類によっては増加の兆しがみられるものの、全体としては減少傾向にあります。びわ湖の魚を増やすためには、魚が産卵し、成長する場所の回復が必要不可欠です。また、びわ湖の魚をたくさん買って食べ、びわ湖の漁業を応援することでも、びわ湖の魚を増やす取組の活発化につながります。



びわ湖の漁獲量



びわ湖の生き物たち

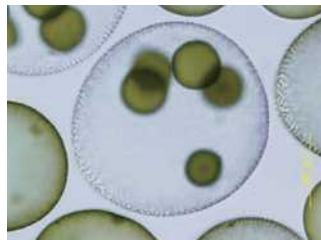


プランクトンは小さな魚に食べられ、小さな魚は大きな魚に食べられ、その魚は鳥に食べられます。生き物たちは微妙なバランスの中で生きており、それぞれの環境に適応して生活しています。ここでは、びわ湖にすむ生き物たちのことを知ってみましょう。

■小さな生き物大きな役割 (7-5 植物プランクトン)

水中をゆらゆらして生活している小さな生き物を、プランクトンと呼びます。植物プランクトンは、動物プランクトンに食べられ、動物プランクトンは小さな魚の重要なえさとなっています。

時に、植物プランクトンはアオコや赤潮の原因となりますが、食物連鎖の基盤としてとても重要な存在なのです。



ボルボックス・ピワコエシス
(写真提供：国立環境研究所)

■底にすむ生き物 (7-19 底生動物)

海や湖、川の底にすんでいる貝やエビ、水生昆虫などを「底生動物」といいます。びわ湖にすむ底生動物は、約800種で、そのうち39種が固有種です。これは、びわ湖の固有種の約60%を占めています。

例えば、アナンデルヨコエビは、ピワマスのえさになっているなど、底生動物はびわ湖の生態系を支えている存在です。



アナンデルヨコエビ（固有種）

■水鳥の楽園 (7-17 水鳥)

びわ湖とびわ湖最大の内湖である西の湖は、国際的に重要な湿地として「ラムサール条約湿地」に登録されており、その登録基準のひとつに「定期的に2万羽以上の水鳥を支えている湿地」があります。

冬のびわ湖には、2万羽をはるかに超える10万羽以上の水鳥がえさをとったり、休息をするためにやってきます。びわ湖は水鳥たちにとって重要な生息地なのです。



コハクチョウ



カイツブリの親子



びわ湖の水鳥

(写真提供(上記3点)：金尾滋史)

■トンボ100種類 (7-20 昆虫)

良好で豊かな水環境がある滋賀県では、これまで約100種のトンボが記録されています。日本には約200種のトンボが記録されているので、日本にいる約半分の種類のトンボが滋賀県にはすんでいることになります。

しかし、近年、環境の変化にともなって、ミヤマアカネやハネビロエゾトンボなど分布が減少しているトンボがいることもわかっています。



ナツアカネ
(写真提供：金尾滋史)

■カエルたちの生息場所 (7-18 両生類・爬虫類)

ヨシ帯が広く続く河口付近の湿地や水際は、カエルなどの両生類や、カメなどの爬虫類が生きていくために重要な場所です。

しかし、こういった水環境は限られている上に、最近ではコンクリート護岸や道路の設置により減少しており、在来の両生類・爬虫類の生息場所を守ることが求められています。



滋賀県の絶滅 危機増大種
ナゴヤダルマガエル
(写真提供：金尾滋史)

▶飼っている生き物は大切に (7-11 外来生物)

飼育が大変だから、飽きたから…どのような理由があっても、生き物は最後まで責任を持って飼いましょう。特に、元々その地域にいなかった生き物を逃がしてしまうと、生態系のバランスが崩れてしまうおそれがあります。びわ湖にも生息し、家庭でも飼育されているアカミミガメとアメリカザリガニは、2023年に「条件付特定外来生物」に指定されました。飼育はこれまでどおりできますが、飼育していたものを野外に逃がすことは禁止され、違反すると厳しい罰則が科せられることがあります。



日光浴中のアカミミガメ

■生き物を守るために (7-2 ネイチャーポジティブの実現に向けた県の取組)

私たちは、自然から得た様々な恵みを消費して暮らしていますが、便利で快適な暮らしを求めるにつれ、他の生き物が生息しにくい環境をつくってしまっています。現在、「滋賀県レッドデータブック」に載っている、絶滅の危機にさらされている生き物の数は増え続けています。

生物多様性は私たちみんなの財産です。多種多様な生き物を守るために、生き物のすみかである森林やびわ湖、川や里山などを大切に、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

生物多様性

人を含めたいろんな生き物が、いろんな自然の中に暮らし、お互いの違いを活かしながらつながりあって生きていること。



水辺の環境を見てみよう



私たちは、毎日の生活の中でちょっとした心がけや工夫をすることで、環境にやさしい暮らしをすることができます。私たちの都合で自然をこわしたり、よごしたりしないようにすることが大切です。

■生き物のすみか「ヨシ群落」(7-8 ヨシ)

びわ湖の水辺に生えている右の細長い植物を、「ヨシ」といいます。このヨシが集まっている「ヨシ群落」は、鳥や魚たちがえさ場やすみかとして利用しており、たくさんの生き物たちにとって大切な場所です。

また、冬場には枯れたヨシを刈り取る「ヨシ刈り」を行います。古いヨシを刈ることで、春に新しい芽が育つ手助けとなるのです。



ヨシ刈り▶



■侵略的外来水生植物 (7-11 外来生物)

一見きれいな右の植物は、「オオバナミズキンバイ」という侵略的外来水生植物です。この植物は繁殖力が強く、水面の広い範囲をおおってしまうことから、他の植物の生育を邪魔したり、船が航行する障害になったりと、様々な被害の原因となります。

また、茎や葉の断片からでも再生するため、機械を使った大がかりな駆除に加えて、人の手による丁寧な駆除作業が不可欠です。現在も、地域のNPOや学生ボランティア等のたくさんの団体と協力しながら、駆除活動を行っています。



オオバナミズキンバイ



駆除の様子

侵略的外来種

外来種の中でも、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるもの。

▶びわ湖のごみ (4-3 琵琶湖のごみ)

県内でポイ捨てされたり、知らない間に飛んでいってしまったごみは、雨や風で河川に入り、びわ湖に流れ込んでしまいます。流れ込んだごみは、湖岸や湖底にたまり、生き物たちを苦しめることもあります。

「誰かが拾うから」という甘い気持ちで捨てないで、一人ひとりがごみを捨てないように、大切なびわ湖を守る行動を心がけましょう。



びわ湖岸に漂着したごみ



水源の森を守ろう



びわ湖と森は川でつながっていて、びわ湖を守るためには森を守る必要があります。大切なのは、森を整備し、そこから生み出される恵みをうまく活用すること。私たちの生活とびわ湖を支えてくれる森林を守るため、私たちにもできることはたくさんあります。

■豊かな森林を未来へ引き継ごう！ (4-13 森林・林業)

今、滋賀では、適切に管理されず、所有者や境界が分からない森林が多くあります。一方で、森林はびわ湖の水源で、多様な生き物のすみかであり、山崩れを防ぐだけでなく、木材やレクリエーションの場など、様々な恵みを生み出す大切な場所です。

都市部に暮らしていても、木でできた食器を取り入れてみたり、休日にハイキングに出かけてみたりするなど、森林に関わる方法はいろいろあります。まずは興味をもったことや楽しそう！と思ったことから始めてみましょう。



人が手入れをしている健康な森林



木材を活用した建物



森林ウォーキング

▶木を使って、森林を守ろう (4-14 林業の成長産業化)

びわ湖の水源となる森は、天然林が6割、人工林が4割となっています。人工林とは、木材を手に入れるために人が木を植えて育てている、「使うための森林」ですが、木材の利用が進んでいないのが現状です。

人工林を良い状態に保つためには、きちんと間伐を行いつつ、育てば伐って使って、また新たな木を植えることが大切です。木を使うことと森を守ることは一見矛盾しているように思えますが、森林を守るための大切なサイクルの一部なのです。





森・川・里・湖を考えよう

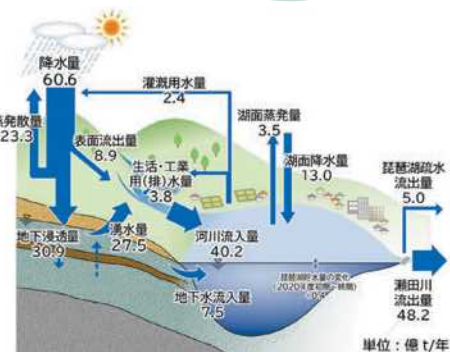


雨は森にたくわえられ、やがて川となり、最後はびわ湖へ流れていきます。周囲には田畑が広がり、いろいろな生き物とともに、私たちが生活しています。びわ湖を取り巻く環境を守ることが、びわ湖を守ることにもつながるのです。

■森・川・里・湖の水のつながり (6-3 水循環)

びわ湖周辺に降る雨や雪の約半分は、山林で地中にしみ込み、湧き出して川の水として、または地下水として流れながらびわ湖にたどり着きます。

このように水は、森・川・里・湖でつながっています。上流域にある森や川を適切に保全することは、水の循環を健全に保つために大切なことです。



びわ湖流域の水循環 (2020年度推計値)

▶守ろう魚のゆりかご水田 (7-15 世界農業遺産「琵琶湖システム」)

びわ湖の魚の中には、ニゴロブナやコイ、ナマズなど、卵を産むために水路をさかのぼって田んぼにやってくる魚がいます。魚の赤ちゃんは田んぼで育ち、大きくなると水路を下ってびわ湖へ戻っていきます。田んぼは、水が温かく、エサが豊富で、天敵も少ないので、魚の赤ちゃんが早く安全に育ちます。まるで心地よいゆりかごのようなので、こうした田んぼを「魚のゆりかご水田」といいます。

滋賀県では平成18年から、びわ湖と田んぼの間を魚たちが行き来できて、人や生き物が安心して暮らせるように「魚のゆりかご水田プロジェクト」を進めています。

この水田で作られたお米は「魚のゆりかご水田米」として売られています。



水田を泳ぐ魚の赤ちゃん

■魚がふえるための森と川づくり (9-8 グリーンインフラ)

川は森からの水や土砂をびわ湖に運び、びわ湖に生息するアユやビワマスは産卵するために川へやってきます。

森-川-湖の水や土砂のつながりが途切れてしまうと、魚たちの産卵場所が少なくなってしまいます。魚道の設置などにより水系のつながりを再生することは、在来魚を守る大切な取組のひとつです。



魚道をつくる様子



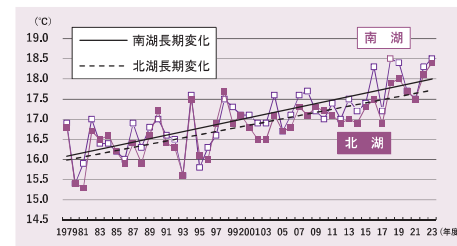
びわ湖と地球温暖化



地球温暖化は、びわ湖やびわ湖の生き物に大きな影響を与えています。びわ湖と地球温暖化の関係を知り、地球温暖化を防ぐために自分たちができることを考えてみましょう。

■びわ湖の表層水温上昇 (8-5 気候変動による水質への影響)

地球温暖化の影響はびわ湖の水温にも表れています。右のグラフからわかるように、びわ湖の水温は少しずつ上昇しています。



▶びわ湖の深呼吸が止まる? (6-5 琵琶湖の全層循環)

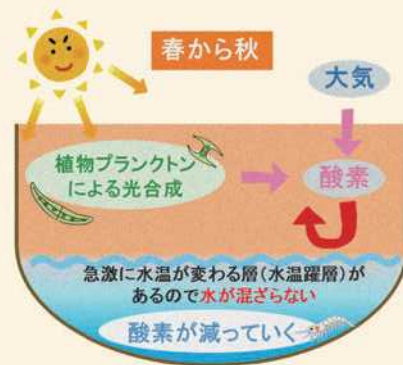
びわ湖が年に一度、「深呼吸」していることを知っていますか? 人間の深呼吸が体内に酸素を届けるように、びわ湖も「全層循環」と呼ばれる自然現象によって湖底に酸素を届けています。

この現象は、真冬に冷えて重くなった湖の表面近く(表層)の水と、湖底の水が混ざり合うことで起こります。酸素を多く含む表層の水が湖底まで行き渡ることで、湖底の生物を支えてきました。

しかし近年、地球温暖化により表層の水が冷えきらず、全層循環が起こらない年がありました。

全層循環が起こらなかったその年は、夏から秋にかけて湖底の酸素が不足し、湖底にすむ生き物が減ってしまいました。さらに温暖化が進むと、全層循環が起こらない年が増えることも考えられ、その結果、湖底の生き物が減るだけでなく、湖底の泥の質が変わることによる、水質の悪化が心配されています。

しかし、びわ湖の未来を守るために、私たち一人ひとりにもできることがあります。これからもびわ湖が毎年「深呼吸」ができるように、自分に何ができるかを考え、温暖化対策に取り組みましょう。



全層循環の仕組み



暮らしを守るために



びわ湖の周りに人が住むようになり、川の氾濫は「災害」となりました。現在、滋賀県では、洪水から暮らしを守ったり、水を利用しやすくしたりするための工事や取組を、環境に配慮して行っています。あなたの住む地域の災害や防災の取組についても調べてみましょう。

■洪水の歴史 (3-8 洪水の歴史)

滋賀県は、川底が周りの地面よりも高い位置にある天井川が多く、昔から台風や大雨により、堤防の決壊や浸水など、多くの水害が発生しています。

また、びわ湖から流れ出る川は瀬田川一本だけであり、びわ湖は大雨が降り水位が上昇すると、元に戻るのに時間がかかることから、古くからびわ湖周辺では浸水被害に悩まされてきました。



びわ湖の大洪水 (1896年9月)

■グリーンインフラ (9-8 グリーンインフラ)

森林が土砂を食い止めたり、川岸の植物が水による浸水を防いだり、自然はたくさんの機能をもっています。このような自然がもつ力をインフラの整備に取り入れ、活用しようという考え方を「グリーンインフラ」といいます。グリーンインフラには、防災・減災だけでなく、生き物の生息地を提供したり、美しい自然の景観をつくるなど、環境保全や地域振興の効果もあります。

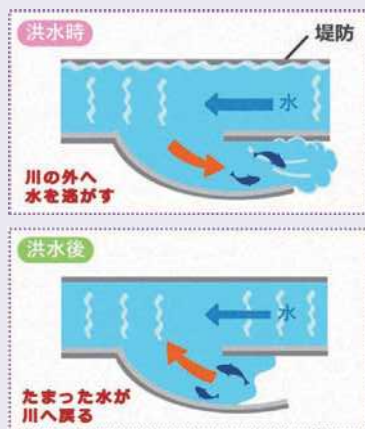
インフラ

道路やガス、水道、病院や公園などの公共施設など、私たちの生活を支える基盤のことを「インフラストラクチャー(インフラ)」と言う。

▶暮らしと自然を守る「霞堤」

日本の伝統的な治水工法のひとつに「霞堤」があります。想定を超える大雨などにより、川や水路の水の量が増えた時に、堤防の切れ目から田んぼ等へ水を逃がし、水の勢いを弱める効果があります。また、洪水がおさまってきたら溜った水が川へ戻る仕組みになっています。

霞堤の働きはこれだけではありません。洪水時には、川の生き物が堤防の切れ目から田んぼ等に一時的に避難し、洪水後にはまた元の川に戻るといような、生き物のすみかを提供し、川・田んぼ・里山のつながりを保つ、グリーンインフラとしての機能も持っています。



霞堤の仕組み



地域の産業を大切に



あなたが住んでいる地域には、どんなすてきな地域の資源がありますか？地域に住むみんなが発信して、地域資源の魅力をどんどん外へ広めていきましょう。

■1000年前から続く営み「琵琶湖システム」 (7-15 世界農業遺産「琵琶湖システム」)

びわ湖の環境や生き物を大切に思いながら、1000年以上前から受けつがれてきた農林水産業や食文化などの営みを、「琵琶湖システム」といいます。「琵琶湖システム」は、世界的にも重要なことだと認められ、「世界農業遺産」に認定されました。

世界農業遺産

「その地域ならではの文化、景観、生物多様性などと深く関わり合いながら、人々の暮らしを支えている農林水産業の営み」を認定する制度。

▶食べることで、びわ湖を守る (4-10 環境こだわり農業)

滋賀県の多くの農家さんは、びわ湖の環境や田畑の生き物を守るために、「環境こだわり農業」に取り組んでいます。農薬や化学肥料を半分に減らすことや、田んぼのにごり水をびわ湖へ流さないようにするなど、環境にやさしい方法で作られた農産物は「環境こだわり農産物」といいます。普段からこうしたお米や野菜を選び、食べることで、環境こだわり農業に取り組む農家さんを応援することにもつながります。

このマークが目印！



環境こだわり農産物

■びわ湖で生まれた奇跡の宝石 (4章トピック 真珠養殖業)

びわ湖では、1930年頃からイケチョウガイというびわ湖固有種の貝を使った淡水真珠の養殖が行われてきました。しかし、貝の成長不良などが続き、淡水真珠の生産量は急激に減少してしまいました。最近では、淡水真珠の価値が改めて見直され、滋賀県と関係者が協力しながらその復興に努めています。

出来上がった真珠は、ピンクやオレンジなど様々な色があり、形も丸だけではなく、卵形や棒状などいろいろあります。どれひとつとして同じものはない個性的な真珠は、びわ湖が育む奇跡の宝石です。



真珠母貝の飼育管理



淡水真珠



びわ湖を知る学びの場



びわ湖や川、森に出かけて身近な自然にふれ、自然の素晴らしさを学んでみましょう。地域のすてきなよさにふれたとき、きっと、そのよさを周りの人に伝えたいとなったり、もっと自分たちの周りの環境を知りたいとなるはずです。

■湖に浮かぶ学校「うみのこ」(2-16 びわ湖フローティングスクール「うみのこ」)

「うみのこ」は、滋賀県の小学5年生全員が乗船する学習船です。一泊二日の航海を通して、びわ湖のことや環境問題について様々な面から学習します。この活動を「びわ湖フローティングスクール」といい、世界的に見てもとても珍しい、滋賀県ならではの活動です。

プランクトンや魚の観察、水の透視度調査などを行い、びわ湖の抱える様々な問題を、びわ湖で学ぶことができます。



2代目学習船「うみのこ」

■森林を学ぶ「やまのこ」(2-17 森林環境学習「やまのこ」)

「やまのこ」学習は、森林への理解と関心を深め、人と豊かに関わる力を育むために、小学校4年生が樹木の観察や間伐体験などの体験学習を行います。

この学習で、森林がびわ湖の水源として重要な役割を果たしてくれることを学んだ後、5年生のびわ湖フローティングスクール「うみのこ」の学習につながっていきます。



間伐体験の様子

■環境学習をもっとみんなの日常に

環境学習センターは、環境学習を普及・促進することを目的に設置されました。環境に興味をもった人が生活や身の回りの自然環境について気軽に話したり行動したりできるように、情報提供やサポートをしています。

「エコロレーが」というウェブサイトでは、県内で開催される環境学習イベントや、学びたいこと・体験したいことを「教えてくれる人」を探したり、環境学習に使う用具を無料で借りたりすることができます。

「エコロレーが」
WEBサイトはこちら



びわ湖をもっと好きになろう



びわ湖は、私たちの生活を映す鏡とされています。大規模な赤潮を背景とした石けん運動をはじめ、びわ湖を大切に守ってきた過去の人々の想いを忘れず、これからもびわ湖とともに歩んでいきましょう。

■7月1日は「びわ湖の日」(4-2 びわ湖の日とびわ活)



赤潮

1977年、家庭からの排水などにより、淡水赤潮が大発生するなど、びわ湖の水のよごれが大きな問題になりました。

◀ 赤潮の原因となる
植物プランクトン (ウログレナ・アメリカナ)



石けん運動

赤潮の原因のひとつが合成洗剤に含まれる「リン」だと知った滋賀県の人々は、自分たちの力でびわ湖をきれいにしようと「リン」を含む合成洗剤をやめて粉石けんを使う「石けん運動」を始めました。

そして、びわ湖よごさないための条例ができ、最近では赤潮は発生しなくなりました。



びわ湖を美しくする運動

1981年には、この条例ができ1周年を記念し、7月1日を「びわ湖の日」に決定しました。この日は、びわ湖を守る大切な日として、県内一斉に清掃活動が行われるなど、環境を守る活動を行う日として今も受け継がれています。



▶びわ活してみよう！



ビワイチ



えび豆作りの体験



水郷SUP



湖岸の清掃

「びわ活」とは、びわ湖と関わる様々な活動のことです。びわ湖で遊ぶことも、びわ湖の恵みを味わうことも、絶景スポットで写真を撮ることも、湖岸のごみを拾うことも全てびわ活です。

滋賀県ホームページ「びわ活ガイド」には、いろんなびわ活イベントを掲載しています。「びわ湖の日」をきっかけに、あなたにぴったりのびわ湖との関わり方を見つけてみましょう。



水でつながる文化と地域

ち い き



かん きょう

環境問題をみんなの手で



びわ湖の周りの地域には、水にまつわる文化や暮らしがたくさん受け継がれています。そのルーツを調べてみましょう。昔から変わらない人々の願いや、ずっと大切にされてきた暮らしの知恵が見えてくるはずです。

■びわ湖に浮かぶ大鳥居 (2-11 日本遺産)

「白鬚神社」は、びわ湖に浮かぶ大鳥居が有名な、近江最古といわれる神社のひとつです。延命長寿の神様が祀られており、参拝客も多い滋賀の絶景スポットです。

数え年2歳の子に名前を授け、その子が無事に成長することを祈る「なるこまいり」の神事は有名で、この神事が行われる9月5日・6日には、全国から参拝客が訪れます。



白鬚神社 (高島市)

■水中に眠る遺跡 (3-1 琵琶湖に眠る水中遺跡)

びわ湖の水辺や湖底では、約80件の遺跡が発見されており、こういった遺跡を「水中遺跡」といいます。遺跡からは土器や農具、丸木舟などが出土しているほか、貝塚や水への祈りとして物をさげた場所などが発見されており、びわ湖とともに歩んできた人々の、豊かな暮らしと文化を知ることができます。



針江浜遺跡調査風景

■水辺の暮らし針江のかばた

(4-4 水と生活文化)

高島市の針江地区には、比良山地から流れる水が地中にもぐりこんで流れ、湧水として吹き出しています。この湧水は「しょうず (生水)」と呼ばれ、昔から大切に利用されてきました。地域の人々はこの生水を利用する水場を「かばた (川端)」と呼び、水路に流す水をよごさないという約束事を受け継ぎながら、水を飲んだり、洗い物などに使ったりしています。



かばた

びわ湖やその周りの環境を守るためには、いろんな人が協力し、話し合っていくことが大切です。いつまでも自然と仲良く暮らしていくために、まずは、個人で、家庭で、学校で、どのように行動すればよいのか考えてみましょう。

■みんなのBIWAKO会議

この会議は、MLGsの各ゴールの達成状況を確認しあい、今後に向けて学びあうために毎年開催しています。高校生や大学生、農家さん、漁師さん、県内のいろんな団体などが集まり、自由にびわ湖の環境について意見交換を行っています。MLGsやびわ湖の環境に関する活動・事業のヒントを探している方は、どなたでもぜひご参加ください。



みんなのBIWAKO会議の様子
(令和6年9月6日)

■世界との対話 (10-6 琵琶湖から世界へ)

▶滋賀県から始まった国際会議

「世界湖沼会議」は、滋賀県が発祥の世界に誇れる国際会議です。1984年に「第1回世界湖沼会議」を滋賀県で開催し、現在も、およそ2年毎に世界各地で開催されています。滋賀県からも行政関係者だけでなく、研究者や市民団体、高校生等、多くの方が参加し、びわ湖での取組を世界に向けて発信しています。なお、2024年12月の国連総会で、「第1回世界湖沼会議」の日である8月27日が、「世界湖沼の日」に定められました。



第19回世界湖沼会議
(分科会)の様子

▶水に関する世界最大級の国際会議

「世界水フォーラム」は、3年に一度、世界中の水関係者が集まり、水をめぐる問題を話し合う世界最大級の国際会議です。

2024年5月にインドネシア・バリで開催された第10回世界水フォーラムでは、「MLGs」をはじめとするびわ湖の取組を発信しました。



第10回世界水フォーラム

豆知識コーナー



ビワコハホンニスゴイ

「ビワマス」、「コアユ」、「ハス」、「ホンモロコ」、「ニゴロブナ」、「スジエビ」、「ゴリ」、
「イサザ」、これら8種の魚は、「琵琶湖八珍」と呼ばれます。これは、固有種を含むびわ湖の食材となる魚を集めた湖魚のブランドです。ちなみに、琵琶湖八珍の8は「∞」も意図し、湖魚を食べる文化が、びわ湖を未来に継承する、無限の可能性を秘めていることへの想いが込められています。

ぜひ、「びわ湖はほんにすごい」で覚えてみてくださいね！



急がば回れ

「急がば回れ」とは、「急いでいるときほど、回り道をした方が結果的に早く着く」という意味ですが、実は由来はびわ湖から来ている。

昔は、びわ湖をはさんで反対側にある草津から大津に行く場合、船で行く方が早かったのですが、天候によって出港できないことがしばしばありました。そのため、旅を急ぐなら船を使わず、自分の足で行った方が確実であるため、このことわざが生まれました。



湖陸風

びわ湖の湖岸に立って風を感じてみてください。実は、びわ湖の周りでは、「湖陸風」という特別な風が吹いています。

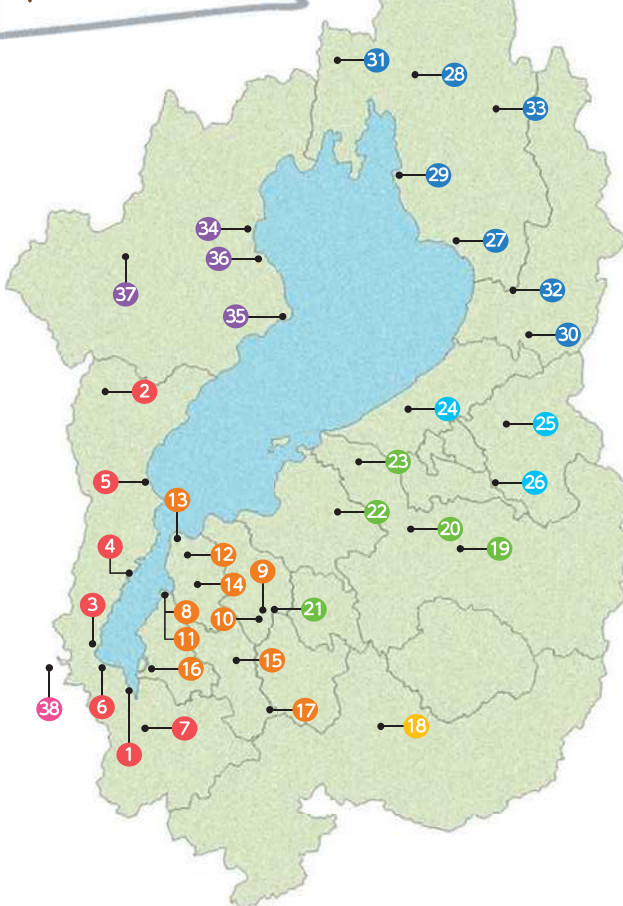
この風は、陸が湖上より早く暖まる日中は、湖から陸へ向かって風が吹き、陸のほうが早く冷える夜は、陸から湖に向かって風が吹くために起きる現象です。



人が住む島

びわ湖には「沖島」という人が住んでいる島があることを知っていますか？
淡水湖にある島で、人が住んでいるのは、日本では沖島しかありません。このような島は世界的に見てもあまり例がなく、学術的にも注目されています。沖島には2023年時点で、200名以上の方が生活されています。

もっと学べる
施設はここ！



	施設名
大津	1 大津市科学館
	2 大津市立葛川少年自然の家
	3 大津市歴史博物館
	4 オーパルオブテックス (株)
	5 BSCウォーター スポーツセンター
	6 琵琶湖汽船 (株)
	7 水のめぐみ館 アクア琵琶
南部	8 琵琶湖博物館環境学習センター
	9 滋賀県林業普及センター
	10 滋賀県立近江富士花緑公園
	11 滋賀県立琵琶湖博物館
	12 びわこ地球市民の森
	13 みさき自然公園
	14 守山市ほたるの森資料館
	15 栗東自然観察の森
	16 淡海環境プラザ・ 滋賀県湖南中部浄化センター
	17 自然体験学習センター 森の未来館
甲賀	18 みなくち子どもの森自然館
東近江	19 あいとうエコプラザ菜の花館
	20 河辺いきものの森
	21 滋賀県希望が丘文化公園
	22 滋賀県立安土城考古博物館
	23 東近江市能登川博物館
湖東	24 彦根市荒神山自然の家
	25 多賀町立博物館
	26 高取山ふれあい公園
湖北	27 長浜市長浜城歴史博物館
	28 ウッディパル余呉
	29 湖北野鳥センター／ 琵琶湖水鳥・湿地センター
	30 滋賀県醒井養鰯場
	31 奥びわ湖・山門水源の森
	32 やまんばの森
	33 滝と溪流の高山キャンプ場
高島	34 琵琶湖周航の歌資料館
	35 滋賀県立びわ湖こどもの国
	36 高島市新旭水鳥観察センター
	37 森林公園 くつきの森
京都	38 琵琶湖疏水記念館

動画で学ぶびわ湖のあれこれ



琵琶湖博物館 (トンネル水槽)



大昔のびわ湖の様子や人々の暮らし、びわ湖の生き物を学ぶことができます。



琵琶湖環境科学センター



ホームページで
水質調査の結果
等を閲覧できます。